

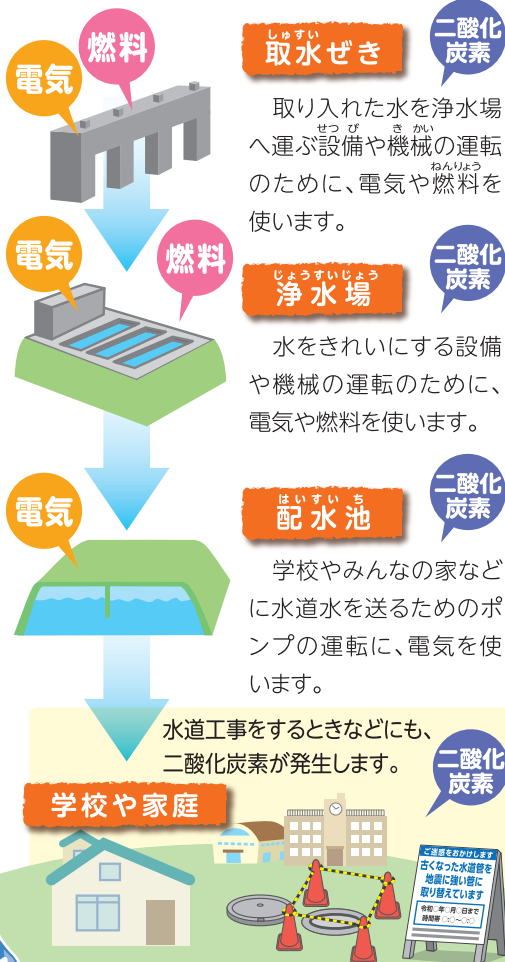
水道局の環境への取り組み

毎日、きれいで安全な水道水を使えるように、横浜の水道は、相模川や酒匂川、山梨県の
 道志川などから水を取り入れ、浄水場で水道水にして、学校やみんなの家に送っています。

水道水をつくるためには、電気などたくさんのエネルギーや資源が必要で、環境にいろ
 ろな影響を与えています。水道水が学校やみんなの家に届くまでに、どんな影響を与えて
 いるのかを見てみましょう。

どんな影響があるのかな？

電気や燃料を使うと二酸化炭素が発生します。



『地球温暖化』

燃料を燃やすと、空気中に二酸化炭素が発生します。

二酸化炭素などいくつかのガスは熱をとじこめる働きがあり、太陽の熱や燃料を燃やして出た熱が、空気の中にたまってしまいます。

その結果、地球の気温が少しずつ高くなってきていると言われています。

地球への影響も考えないといけないね。



水道局が環境を守るために行っていること

1. 水源の森林を守る

水道局は、山梨県道志村に水源林を持っています。この森林を良い状態に保つために、余分な木を切るなどの手入れをしています。

また、人手不足で手入れが行き届かないそのほかの森林は、市民ボランティアのみなさんと協力して作業しています。



森林の手入れ作業



2. 浄水場などで電気をつくる

水道水をつくるためには、多くの電気が必要です。浄水場や配水池では、太陽光や水力などの自然の力を使って、水をきれいにするために必要な電気の一部をつくっています。



太陽光発電設備

令和元年度
 二酸化炭素排出量の合計は…
7,892万キログラム

約1億7,936万平方メートルの面積(横浜市全体の約40%)の森が1年間で吸収する量です。水道水1立方メートルをつくるために、約193グラムの二酸化炭素が排出されました。

水道局で使われた、電気や燃料の一年間の合計(令和元年度)

電気	1億3,300万キロワットアワー	一年間に家庭で使う電気 × 約4万5,000軒分
軽油・灯油・ガソリン	152立方メートル	小学校のプール × 約1杯分
都市ガス	10万立方メートル	一年間に家庭で使うガス × 約290軒分